

揺れ動いた日

中学校 三年 佐々木優衣

忘れもしない 寒い冬の日
教室にいたとき
大きく地面が動いた
あわてふためいた
いそいで校庭に避難
寒い日だった
突きぬける風は氷のように冷たく
不安をおおっていた
迎えが来ないと私達は
かえれない
あいにく
うちは共働き
予想できていた：
他の家のお母さんは
早く迎えに来てた
正直うらやましかった
繰り返される余震
震える自分：
涙を流す人たちもいた
私の心は乾いていく

気付けば
人数は
五分の一くらいに
待って、待って、
やっと母が来た
そつと私の頭をなでた
心まであたたかさが届いた
母はいつも
兄をひいきして
私には厳しかった
小づかいも、部屋もなかった
そんな母だから
その時のことを
今でも鮮明に覚えているのだろう
お母さん、ありがとう
これからも
見守っていてね